

雨水の入らない総密閉ワンタッチ型



取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、紛失しないように大切に保管してください。

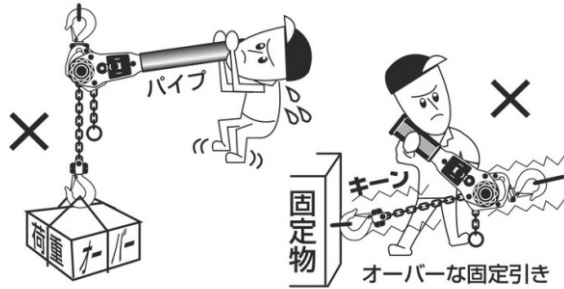


8つの安全厳守事項



レバーホイストは重量物を扱う関係上、安全対策をおこたると品物の破損とか、生命をなくする危険があります。万一のことを考えて慎重にお使い下さい。

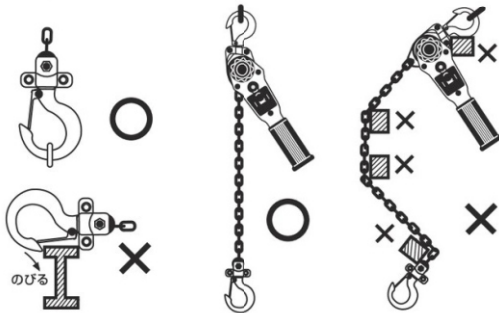
- ① 表示トン数以上の荷重を加えないこと。
レバーを故意に長くして使用しないこと。



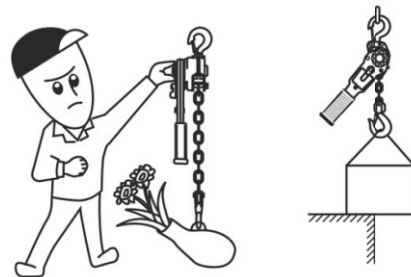
- ② オーバ荷重操作をして、部品に変形が生じたものは使用しないこと。



- ③ 上下フックとチェーンが曲がらずに一直線になるように使うこと。



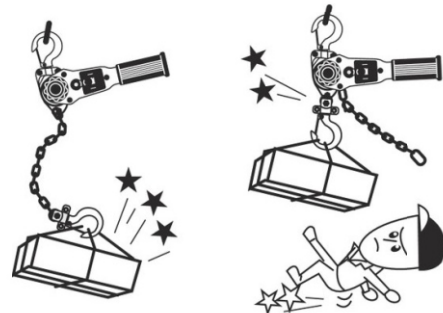
- ④ 巻戻し作業によりつり荷を巻降するとき、つり荷を障害物に引掛けるなどして見かけ上、無負荷の状態になるようにしないで下さい。



- ⑤ キリカエレバーをD(DOWN)にしたままでエンド側のチェーンを引かないこと。レバーが回り顔に当たります。



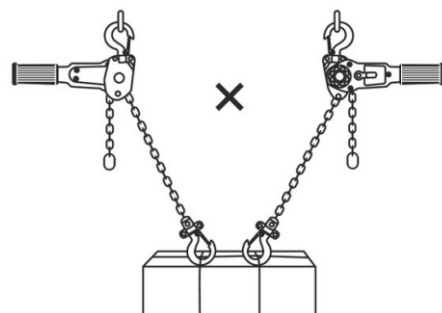
- ⑥ 巻き下げすぎ、巻き上げすぎをしないこと。



- ⑦ つり荷の下には絶対に立ち入らないこと。



- ⑧ 2丁づりはしないこと。

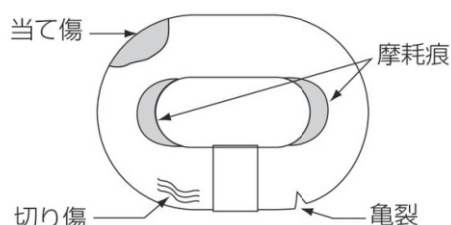


使用前の準備

1. チェーンに軽く油をさして、リンクの動きをよくし、チェーンのタテリンクが端から端まで、まっすぐにねじれないようにしてから使って下さい。



2. 上、下フック、チェーンにムリな力がかからないように、上フックとつり荷が一直線になるように取付けて下さい。(前頁③)
3. ロードチェーンに傷や摩耗跡がついていないことを確認して下さい。



4. 0.25、0.5 トン用に限界以上の荷重を掛けて使われるとハンドルが動かなくなります。例えばトラックの荷締めの場合、車が急カーブしたときなどチェーンに瞬間的にオーバー荷重がかかってしまいます。このような場合は 1 ランク上の定格荷重の機種をお選び下さい。

● 正常操作の使い方 (負荷がかかっている状態での操作)

操作の仕方



キリカエレバー
DOWN

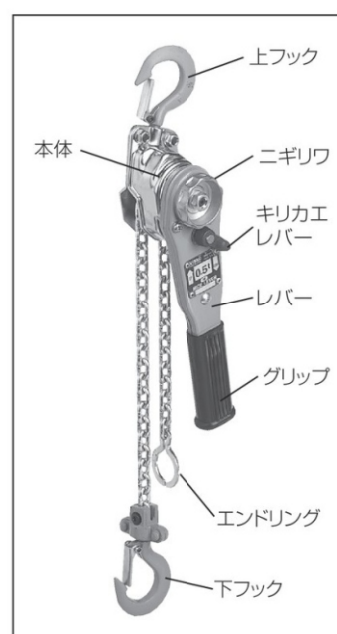
1. 巻上げの仕方

キリカエレバーを左 ↑ (UP) 方向にします。
グリップをつかんで往復運動をします。
荷は時計方向に動いただけ巻上げられます。
巻上げるまでにチェーンがタルンでいる時は、ニギリワを時計方向に回すだけでチェーンのタルミがとれます。

2. 巻下げの仕方

キリカエレバーを右 ↓ (DOWN) 方向にします。
グリップをつかんで往復運動をします。
荷は反時計方向に動いただけ巻下げられます。
* 正常操作中はキリカエレバーを右、左、中央のどちらを動かしても常にブレーキはきいています。
* レバーのクイック操作はしないで下さい。

参考：試し操作の場合でも必ず負荷をかけて下さい。
無負荷で操作してもブレーキが作動しないので巻上げ巻下げもできません。



●空転操作の使い方（無負荷の状態でのチェーンの長さを調節する方法）

空転の準備

1. キリカエレバーを中央の位置「N」（中立）に合わせます。
自動空転式ですから、この操作だけでチェーンの右側、左側の長さ調節ができます。

参考：空転操作がしにくい時には、キリカエレバーを右 ↓（DOWN）にしてから
ハンドルを 1 ～ 2 回動かします。
次にキリカエレバーを「N」にして下さい。

空転の時チェーンを強く引きすぎると、ブレーキが締まりチェーンが動きません。
その時も「参考」と同じようにして下さい。



空転の準備

キリカエレバー
N



空転の解除

キリカエレバー
UP



空転操作をする前は下フックにワイヤー等の吊りひもが残った状態では、絶対にしてはいけません。

【理由】たて長の荷が床についてから、キリカエレバーを「N」にして荷を倒せば、
空転操作でチェーンを引いたのと同じことになり荷は倒れます。

空転の解除

1. 下フックに荷がかかるまで、エンド側のチェーンを引っばります。
キリカエレバーを左 ↑（UP）方向にし往復運転します。
- 参考：空転状態でも下フックに荷重をかければ自動的にブレーキがかかります。

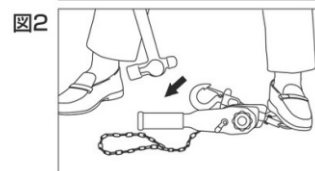
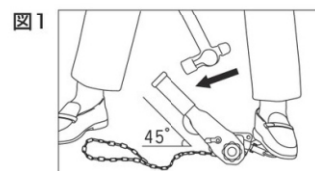
使用後の処理

1. 使用後は必ず空転操作を確認して、次回の使用に備えて下さい。
2. 汚れや水気をよく拭き取り、チェーン、フックの回転部分に油をさして下さい。
3. 格納は湿気のないところに、つるしておいて下さい。

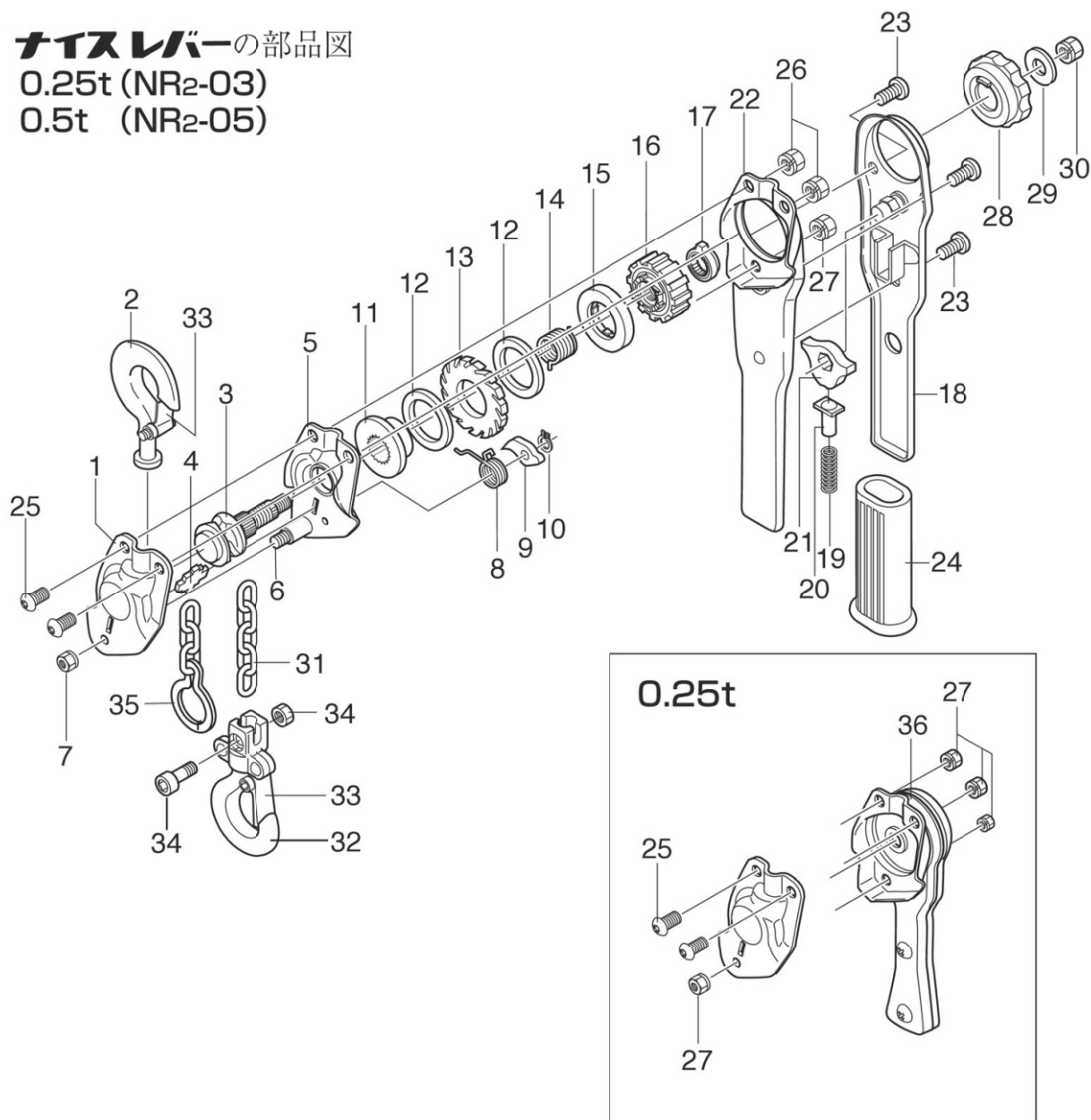
巻下げ不能時の処理

図1の手順

- ① 本体の上フックを足で押さえ固定します。
- ② キリカエレバーを右 ↓（DOWN）方向にします。
- ③ ハンドルを45°迄持ち上げます。
- ④ ハンドルのグリップの先端を ← 印方向へハンマーでショック的な力を加えて下さい。
- ⑤ 図2のようになれば巻下げ不能が解除されます。



ナイスレバーの部品図
0.25t (NR2-03)
0.5t (NR2-05)



組番	部 品 名	員数	組番	部 品 名	員数	組番	部 品 名	員数
1	ガワイタ2組	1	15	オシワ	1	28	ニギリワ	1
2	上フック組	1	16	キリカエギヤ	1	29	ピニオンワッシャ	1
3	ロードシーブ	1	17	チェック	1	30	ピニオンナット	1
4	ケリ	1	18	レバーA組	1	31	ロードチェーン	1
5	ガワイタ1組	1	19	オシバネ	1	32	下フック組	1
(6)	ステーボルト	1	20	オシピン	1	33	安全金具	2
7	ナット 8ミリ 0.5t用	1	21	キリカエツメ	1	34	チェーンボルト・ナット	1
8	ツメバネ	1	22	ブレーキカバー組 0.5t用	1	35	エンドリング	1
9	ツメ	1	23	レバーボルト 6ミリ	3	36	レバーハンドル式 0.25t用	1
10	スナップリング	1	24	グリップ 0.5t用	1			
11	ハブ	1	25	ホンタイボルト	2			
12	ブレーキバン	2	26	ナット 8ミリ 0.5t用	2			
13	ラチェットギヤ	1	27	ナット 6ミリ 0.5t用	1			
14	カラバネ	1	27	ナット 6ミリ 0.25t用	4			

分解・組立の仕方

1. チェーンのはずし方：キリカエレバーを中立(N)にし、空転の状態にしてから、36(エンドリング)をはずして32(下フック)側の31(チェーン)を引いてはずして下さい。
2. ハンドル、ブレーキ部分の分解：部品図の右端から順番に分解して下さい。
3. 中央部分の分解：部品図の左端から順番に分解して下さい。
4. 組み立て方：部品図の組番の順序で組み立てて下さい。

5. チェックの分解と組立

〔分解〕

- ① 30, 26, 27(ナット)を外して28(ニギリワ)と18,22(ハンドル)をとります。

〔組立〕

- ① 16(キリカエギヤ)には、常に14(左巻バネ)が作用しているために、キリカエギヤを指で時計方向へ、一杯しっかり回して、キリカエギヤが反転しない状態にする。
- ② 17(チェック)の凸部(突起)を16(キリカエギヤ)の右図の目印「□」に合うように入れてから指をはなす。
- ③ キリカエレバーを中立にした18,22(ハンドル)を入れます。
- ④ 28(ニギリワ)の凸部(突起)を16(キリカエギヤ)の狭い方にいれます。
- ⑤ 29(ピニオンワッシャ)を入れてから30(ピニオンナット)で締めつけます。



整備と点検の仕方

部品に変形(伸び、キズ、マモ一、ワレ、曲がり等)が発生すれば、必ず部品交換をして下さい。

1. <分解・組立の仕方-1>により、31(チェーン)、36(エンドリング)、32(下フック)、34(ボルト)等に変形がないか。
2. <分解・組立の仕方-2>により、18(ハンドル)、22(ブレーキカバー)、17(チェック)、12(ブレーキバン)、9(ツメ)等に変形がないか。
3. <分解・組立の仕方-3>により、1,5(ガワイタ1, 2)、2(上フック)、4(ケリ)、3(ロードシーブ)、等に変形がないか。
4. 組立に際しては、各部品を洗い油等でよく洗って下さい。また回転部分には、グリスを注油して下さい。
5. 2枚の12(ブレーキバン)と、その両面に接触するマサツ面はよく拭いて下さい。注油をする必要はありません。

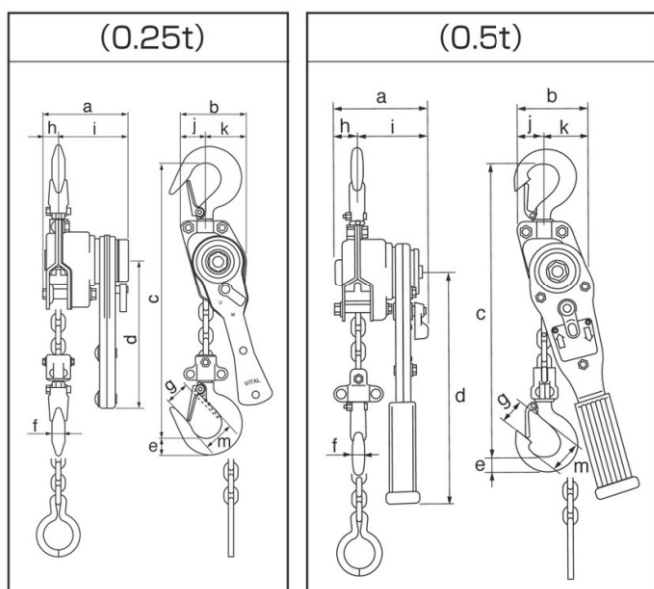
※数字は部品図の組番です。

仕様表

(数値は変更されることがあります)

略号		NR2-03	NR2-05
定 格 荷 重	(t)	0.25	0.5
標 準 揚 程	(m)	1.0	1.5
自 重	(kg)	1.9	3.5
フック間最短	(mm)	230	260
手 引 力	(kgf)	30	34
	(N)	294	333
チェーンの線径	(mm)	4.0	5.0
寸 法	a	85	108
	b	65	82
	c	230	260
	d	151.5	267
	e	16.5	17.5
	f	12	12
	g	24	27
	h	15	25
	i	70	83
	j	24	30
	k	41	52
	m	31	36

● 揚程はご要望により変更いたします。



使用基準

ナイスレバーを使用する際、以下の事柄に注意して下さい。

	1	ネームプレートの定格荷重の表示が判別出来ない物は使用しないで下さい。
	2	検査以外に定格荷重を超える荷重を絶対に掛けないで下さい。
	3	当社以外のロードチェーンを使用しないで下さい。
	4	急激な負荷が掛かるような操作はしないで下さい。
	5	揚程不足のレバーホイストは使用しないで下さい。
	6	上フック・下フックに安全金具がない物や、安全金具の効果がない物は使用しないで下さい。
	7	上フック・下フックに損傷や変形がある物は使用しないで下さい。
	8	フックに荷を掛けるときは、必ずフックの軸の延長線上の位置で掛けて下さい。フックの先端で絶対に荷を掛けないで下さい。
	9	フックや本体を支点にして使用しないで下さい。
	10	エンドリングがないものは使用しないで下さい。
	11	ロードチェーンに損傷や変形がある物は使用しないで下さい。
	12	ロードチェーンを荷に巻きつけて使用しないで下さい。
	13	ロードチェーンを鉄板などの角に当てて使用しないで下さい。
	14	ロードチェーンを溶接作業のアースにしないで下さい。
	15	ロードチェーンの継ぎ足しや溶接は絶対にしないで下さい。
	16	レバーをパイプ等で故意に長くして使用しないで下さい。
	17	レバーを足で踏み付けるような操作をしないで下さい。
	18	巻上げ過ぎ、巻下げ過ぎをしないで下さい。
	19	吊ってある荷物の下に立ち入らないで下さい。
	20	吊り荷の上に乗って操作しないで下さい。
	21	荷が掛かっているときは、遊転をしないで下さい。
	22	荷を吊ったままで長時間放置しないで下さい。
	23	使用前にロードチェーンにねじれやもつれがないかを点検し、ねじれやもつれがある場合は、これを正しく修正してから使用して下さい。
	24	レバーホイストは、-40℃～+60℃（湿度は100%以下）の範囲内で使用して下さい。水中では使用しないで下さい。
	25	製品や部品を絶対に改造しないで下さい。
	26	レバーホイストを放り投げたり、引きずったりしないで下さい。
	27	使用前に日常点検を行って下さい。また定期点検（※1）も行って下さい。
	28	操作中に手引力が異常に大きくなった場合は、直ちに操作を中止して下さい。また、手引力が通常より大きくなったレバーホイストは使用しないで下さい。
	29	ロードチェーンには、潤滑剤を塗布して使用して下さい。
	30	歯車、軸受、その他摩耗のおそれがある箇所には、潤滑剤を塗布して使用して下さい。
	31	長期間で使用にならないときは、適切な錆止めをした上で塵埃等が付着しないようにして保管して下さい。
	32	特殊な使い方をするときは、当社へお問い合わせ下さい。

（※1）定期点検は使用頻度によって異なりますが、6ヶ月または1年ごとに行って下さい。

点検基準

ナイスレバーを点検する際、以下の事柄に注意して下さい。

1	日常点検における点検項目、点検方法および点検基準は、「点検要領」が基本となります。ただし、使用頻度が多い場合または特殊状態で使用される場合には、この点検項目以外についても点検するようにして下さい。
2	定期点検については、「点検要領」を基に行って下さい。
3	レバーホイストを修理した場合には、修理後、「点検要領」の定期点検項目に沿って点検し、荷重を掛けて正常に作動することを確認して下さい。
4	交換部品は、当社純正部品を使用して下さい。

JIS B 8819に規定されている「作動試験における作動荷重」は、下表のとおりです。

定格荷重	0.25t	0.5t
作動荷重	0.38t	0.75t

（実際の作業では負荷しないで下さい。）

点 検 要 領

点検の種類		点検項目	点検方法	点検基準
日常点検	定期点検			

<表元>

○	○	表示（銘板）	目視	表示（銘板）の有無。
	○	ロードチェーンの等級		ロードチェーンの等級の確認。

<作動>

○	○	巻上げ・巻下げ機能	20kg程の負荷で巻上げと巻下げを行う	巻上げでブレーキ装置のツメの音がすること。 巻下げでブレーキに異常がないこと。
○	○	巻き・戻し切替装置	操作	円滑に作動すること。
○	○	空転機能	操作	無負荷で円滑に空転できること。

<フック>

○	○	フックの開き	日常点検では目視 定期点検では測定	標準寸法と比較し、変形のないこと。 （使用前に主要寸法表を作成しておくこと。）
○	○	変形	目視	曲がり及び、ねじれがないこと。
○	○	シャンク部の変形	日常点検では目視	フック金具とシャンク部に著しく隙間のないこと。
○	○	磨耗、腐食	定期点検では測定	著しい磨耗または腐食のないこと。
○	○	傷、その他有害な欠陥	目視	亀裂、その他有害な欠陥のないこと。
○	○	安全金具	目視、作動	著しい磨耗や変形がなく、正常に機能すること。

<ロードチェーン>

○	○	ピッチの伸び	日常点検では目視 定期点検では測定	1リンクでも5%以上伸びているものは使用しないこと。（使用前に基準寸法を作成しておくこと。）
○	○	磨耗		1リンクでも線径の磨耗が10%以上のものは使用しないこと。
○	○	変形	目視	変形のないこと。
○	○	傷、その他有害な欠陥		亀裂、その他有害な欠陥のないこと。
○	○	腐食		著しく錆が発生していないこと。

点 検 要 領

点検の種類		点検項目	点検方法	点検基準
日常点検	定期点検			

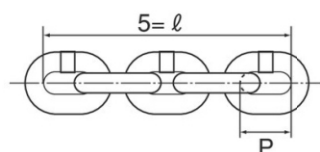
<本体>

○	○	ガワイタ1・2組	目視	変形または著しい腐食のないこと。
○	○	ブレーキカバー		日常点検では外部から見える箇所のナット、リベット等の脱落の有無と緩みのないこと。
○	○	各部ナット・リベット等		定期点検では外部及び内部の上記部品の異常の有無。
	○	ロードシーブ	測定	著しい磨耗または変形のないこと。
				亀裂及び、破損のないこと。
○	○	レバー	目視	著しい変形・磨耗・腐食・亀裂やその他有害な欠陥のないこと。
	○	キリカエツメ (0.5tのみ)	分解して目視または 測定	著しく磨耗や腐食のないこと。
○	○	ニギリワ	目視	傷及び、破損のないこと。
	○	ピニオン	分解して目視または 測定	著しい磨耗やねじ目などの破損及び、腐食がないこと。
	○	ハブ		
	○	キリカエギヤ		磨耗・亀裂・破損など有害な欠陥のないこと。
	○	軸受(0.5tのみ)		著しく磨耗していないこと。
	○	ブレーキバン		著しい磨耗・腐食・破損がないこと。
	○	ツメ及び、ラチェットギヤ		その他、使用上有害な欠陥のないこと。
	○	その他		

*分解・組立後、荷重をかけて作動が円滑であるか必ず確認して下さい。

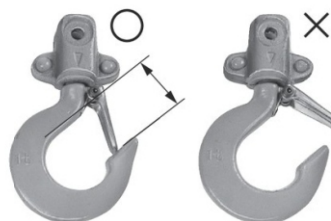
ロードチェーンの限界寸法(mm)

定格荷重	線径	ピッチ	5リンク寸法	
		P	標準	限界
0.25t	4.0	12.0	60.0	61.0
0.5t	5.0	15.0	75.0	76.0



フックの限界寸法(mm)

定格荷重	フック開き寸法	
	標準	限界
0.25t	24.0	26.3
0.5t	27.0	29.6



安全金具がはずれる程伸びたフックは使用しないで下さい